

- 02 アートビレッジ・シラキノの挑戦
- 06 イベント情報
- 10 まちの話題
- 14 市政通信
- 20 島原半島世界ジオパーク
教えて！国民年金
- 21 ハーモニ一通信
- 22 国際交流員コラム
- 23 島原手延そうめんレシピ
こんにちほ！
消費生活センターです
- 24 インフォメーション
- 28 南島原市図書館だより
- 29 保健・子育て
- 30 市民カレンダー

市役所の担当課がわからないときは
気軽にお問い合わせください。

南島原市役所

☎73-6600

月～金曜日(祝・休日を除く)
【受付時間】8:30～17:15

市HP(ホームページ)で
さまざまな
情報を配信中！



あなたが欲しい情報を
お届けします

南島原市LINE
公式アカウント



南島原市の人口と世帯数

令和8年9月末日現在 (前月比)

- 人口：39,089人(－43)
- 男性：18,326人(－19)
- 女性：20,763人(－24)
- 世帯数：18,222世帯(±0)

すべてはこの1枚から始まった

～時を超えて甦る 430年前の「名もなき生徒」の記憶～

なぜ南島原に本格的な版画施設があるのでしょうか？
シラキノに入館すると1枚の銅版画『セビリアの聖母』から始まります。
最初に目にするこの作品から日本における銅版画の歴史が始まりました。
今から約430年前、当時の南島原には「セミナリヨ」という教育機関があり、日本の若者へ西洋の最先端技術や神学が教授されました。「グーテンベルク式の金属活版印刷技術」も伝わり、この技術で日本人の手による最初の銅版画『セビリアの聖母』が名もなき生徒により制作されました。
しかし、禁教令などの激しい弾圧に加え、島原・天草一揆により、わずか数十年で他の西洋文化とともに、印刷・版画文化も人・物・技術ともに、跡形もなく消し去れてしまいます。南島原の地で花開くはずだった光り輝く可能性や版画の歴史は、長きにわたり歴史の闇に葬られてしまいました。



「セビリアの聖母」(複製版)



アートビレッジ・シラキノの挑戦 ～1枚の銅版画から始まった歴史～

かつて平和祈念像の作者で彫刻家・北村西望先生が学び、子どもたちの元気な声が響いていた「白木野小学校」の校舎。その面影を大切にしながら、今、ここは世界中からアーティストが集う「創作の拠点」へと生まれ変わっています。
名前は「アートビレッジ・シラキノ」
版画家を中心とするプロの芸術家が滞在して作品を生み出すだけではなく、私たち市民がいつでもアートに触れられる。この秋、懐かしい廊下の先にある、南島原の世界に誇る歴史を覗いてみませんか？

アートビレッジ・シラキノとは



- 1階はギャラリー
 - 2階は滞在用の宿泊室
 - 3階は版画工房とアトリエ
- 制作～展示～交流を1棟の中で循環している施設です。

アートビレッジ・シラキノの取り組み



①アーティスト・イン・レジデンス (略称：AIR)

若手芸術家が2カ月間滞在し、創作やリサーチ、地域貢献活動などをしてもらい、展覧会やギャラリートーク、ワークショップなどを行い、市民と交流する。

そして、南島原で感じたことを投映した作品を寄贈してもらう事業を行っています。

②版画文化の再生

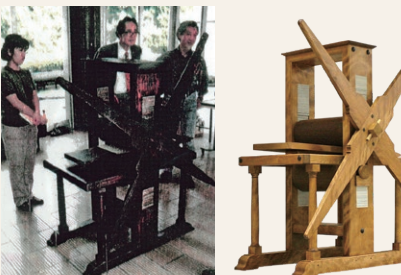
約430年前に一度消えてしまった版画文化の灯火を復活させるため、施設内には、さまざまな版画技法に対応した工房、プレス機など、充実した設備や道具を揃えています。



400年の時を超えて 繋がった版画の記憶



銅版画家 渡辺 千尋 氏(1944～2011)
撮影・林 漢泉



復元されたロール式木製銅版画印刷機

長崎にゆかりのある銅版画家・渡辺千尋氏は、歴史に埋もれていた『セビリアの聖母』に着目し、二十六聖人殉教の道のり(京都・長崎・約800km)を徒歩で踏破するなど、幾多の試練を経て、当時の技術で作品を複製し、ローマ教皇へ献上しました。この取り組みが、南島原の版画文化に再び光を灯しました。

その後も渡辺氏は、「セミナリヨ版画展」の立ち上げや木造銅版画プレス機の再現などに尽力し、晩年には、版画展を全国公募のコンクールへ発展させる夢を中林忠良氏(版画家・東京藝術大学名誉教授)に託しました。その思いを受け継いだ中林氏と野田哲也氏(版画家・東京藝術大学名誉教授)が「セミナリヨ現代版画展」を立ち上げ、30年以上にわたり南島原の文化として育み、現在の「アートビレッジ・シラキノ」へとつながっています。

廃校・版画・再生

～歴史を紡ぎ、記憶を刻み、世界中から才能が集まる学び舎に～



アートビレッジ・シラキノ
ディレクター
銅版画家
池田 俊彦 氏

池田氏は「シラキノは外部のアーティストと南島原の人が交流し、記憶を刻む。シラキノそのものが版画的な行為」と語り、人々の思いや記憶が未来の南島原へ受け継がれていくことを願っています。

430年の歴史と、版画家・市民たちの30年に及ぶ歩み。その情熱が結実し、2018年(平成30年)に誕生したのが「アートビレッジ・シラキノ」です。
銅版画技術発祥の地・南島原の歴史を継承し、芸術文化を発信する拠点として、若手芸術家の活動を通じた新たな地域文化の創造に取り組んでいます。
名もなき生徒から始まり、渡辺氏が灯し、中林氏・野田氏が育てた思いを受け継ぐのが、開設当初からディレクターとして活動する版画家・池田俊彦氏です。